



工場内の各部門を回り、気さくに社員と言葉を交わす廣瀬社長。「社員とは、素直に誠実に接するように心掛けている」と話す。

トップブランドが注目 秋田のMade in Japan

薄くて軽いテント生地から、登山用ザックや消防防火衣、分厚く硬く丈夫な生地の重布^{じゅうふ}まで、幅広い縫製に対応できる縫製メーカー、廣瀬産業。「まさか、この製品が秋田県内で作られていたとは！」と驚くような、一度は目にしたことのある製品を数々手がけている。秋田県の誘致企業として現由利本荘市で営業を始めて45年。その歩みとこれからを聞いた。



特殊ユニフォームやテントの作り手

由利本荘市の小高い丘にたつ本社・工場の敷地は約3,000平米。工場は、40m×60mの広いワンフロアに、重布、ウェア、テントなどの各部門と、断裁・保安部門がずらりと並ぶ。

山ノ神工場は、国内でも数少ない重布製品を得意とする工場である。主な製品は、登山用ザック、多人数宿泊用のテントの他、消防服（防火服）や救急隊員を血液感染のリスクから守る感染防止衣、自衛隊の天幕や背のう（リュック）、日本郵政が用いる郵袋（ゆうたい）、高性能コンピューターカバーなど。テント部門では、雪山での過酷な環境にも耐え続ける様々なテントを生産している。また近年は、アパレル関連の生産のラインを設け、アウトウエア等の縫製にも取り組んでいる。

ゴアテックス製品（防水透湿性に優れ、雨などの水滴

は通さず、蒸気のみ通す素材）の製造を認められている国内約20の認定工場のうちの1つである。加えて、シームテープ（縫い目をカバーする防水テープ）の熱圧着処理や、超音波機による熱溶着縫製で糸を使わない「無縫製」などの技術を持ち、「Made in Japan」の高機能製品を生産し、数々の実績を築いている。

秋田の人びとに支えていただき早45年

同社のルーツは、111年前にさかのぼる。明治38年、三井呉服店（現三越）の諸官庁部長として活躍した廣瀬太次郎が分社化により独立し、綿や麻の卸問屋「廣瀬商会」を立ち上げた。当時の主な取引先は、官公庁や陸海軍。最初の取引先は、全国の郵便ポストの中の郵袋だった。大正2年、縫製部門として東京の月島に縫製工場を設立。昭和46年、縫製部門を分離し、現由利本荘

市に「廣瀬縫製株式会社」として進出。同53年「廣瀬産業株式会社」と現社名に変更した。

以降、秋田県内、岩手県内、中国の山東省・諸城に、立て続けに工場を開設してきた。平成26年には、由利本荘市内に分散していた重布、断裁、ウェア第1～3、テントなどの部門を本社工場に集結。新工場として稼働を始めた。

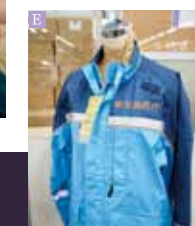
創業45周年を迎え「土地の縁をずっと大切にしたい」と話す廣瀬社長。「もとは縁もゆかりもなかった秋田だが、我々の今があるのは、この地盤あってこそ。仕事に協力してくれる由利本荘市内を含め県内外の同業者の存在や、熱心に仕事に取り組んでくれる社員のおかげ」。県内の雇用者は関連会社を含めて146名。秋田県・岩手県を合わせると162名。新卒の採用も続けている。また同社では、親子、夫婦、嫁姑など、家族で働いているケースも多く、「経営者としてうれしい。縫製業は決して高賃金ではないが、ものづくりの楽しさ、醍醐味の面ではどこにも負けない」と笑顔を見せる。

「Made in Japan」を誇りに新規に挑戦

廣瀬社長は同社の4代目。平成24年、営業本部長で入社。平成26年から専務で経営に携わり昨年8月から現職に。「古いものにしがみつけないことはある意味幸せ

だが、それだけでは成長なくいずれ衰退してしまう。古いものに教わりながら、失敗を恐れず新しいものに挑戦する」と話す。少子高齢化や相次ぐアパレル工場の閉鎖、製糸業・生地メーカーの海外離脱など、様々な環境の変化を敏感に読み、新たな事業・サービスに積極的に挑戦している。一時期、縫製工場の多くは海外に進出したが、今は国内に戻りつつあり、日本のものづくりの品質・技術、安全性、美しさ、誠実さ等が再評価されている。「日本でもものづくりを続けることは、大きなメリットがある」と廣瀬社長は胸を張る。

同社では新たな取り組みとして、企業のユニフォーム、消防防火衣、大手ブランド製品を補修するメンテナンス・リペア事業や、シームテープや無縫製の技術を活かしたコート製造なども始めた。また、「Factory for you」…あなたの工場として」とスローガンを掲げ、ホームページを介して新たに大手アパレルブランドや若手デザイナー等のマイナーブランドとも積極的に関係を構築。新規売上を伸ばしている。「Made in Japanの付加価値は、世界にもっと誇るべきもの。Made in Japanの技術力を活かし、国内需要を取り込んで、強く優しく面白い会社を求め続ける廣瀬産業でなければできないものづくりに挑戦し続けていきたい」と力強く語る。



A 消防防火衣の製造部門。工場は写真に全景が収まりきらないほどの広さ。社員は、50代に次いで20代が多く、ベテラン職人から若手への技術継承が行われている。

B 布の柄合わせは1枚1枚、職人が手作業で行っている。

C アウトドア製品のリペア作業。熟練の技術をもつベテラン職人が手縫いで補修。

D コートを手にする廣瀬社長。無縫製の技術を用いて作るコートは、糸がない分、すっきりとした着心地。今後は、コートの製造部門を拡充し、生産に力を入れる予定。

E 救急隊員用の感染防止衣。

F 陸上自衛隊用の製品を製造する部門。

廣瀬産業株式会社

〒015-0014 由利本荘市石脇山ノ神11-904
TEL.0184-22-6532 FAX.0184-22-6552
<http://hirosesangyo.co.jp>

● 設立 / 昭和46年 ● 従業員数 / 127人
● 資本金 / 2,000万円 ● 事業内容 / 縫製業